

第34回木津川市都市計画審議会

第2次木津川市都市計画マスタープラン後期計画
の策定について

令和7年7月25日

木津川市建設部都市計画課



第2次木津川市都市計画マスターplan 後期計画の策定について

1. 第2次木津川市都市計画マスターplanの概要
2. 後期計画の策定に向けて
3. 今後のスケジュールについて

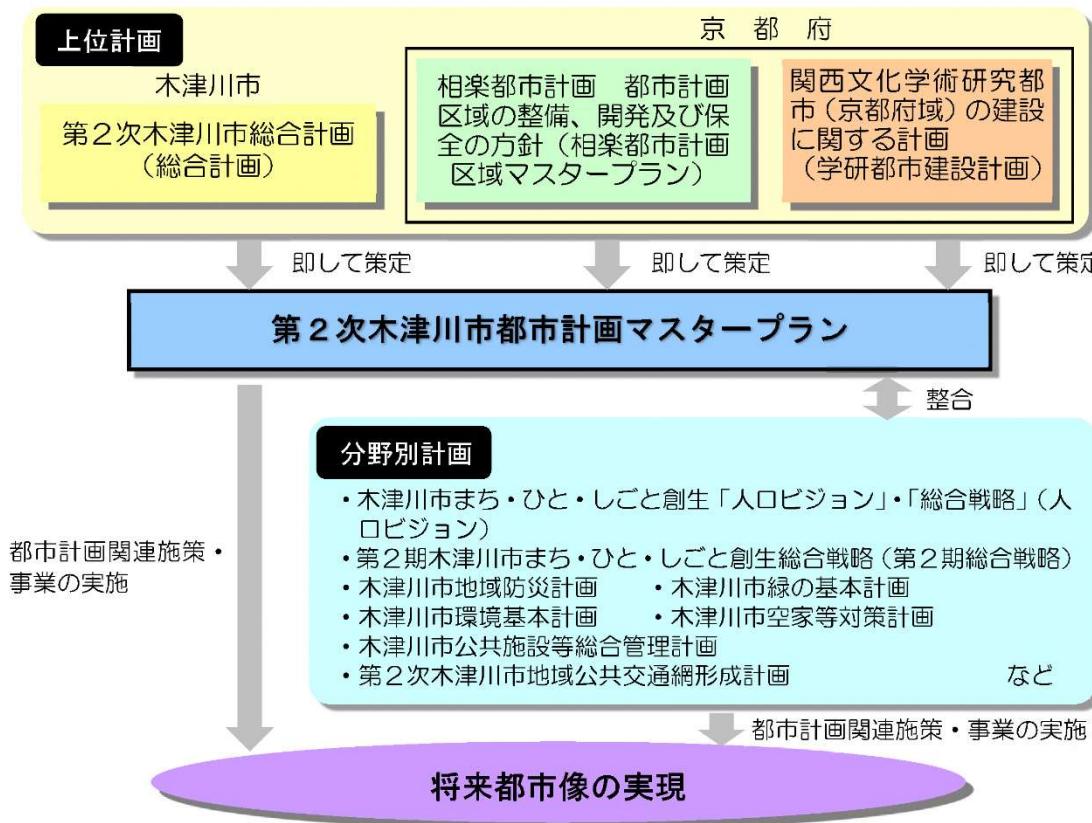
1. 第2次木津川市都市計画マスタープランの概要



I 計画の前提

(1) 都市計画マスタープランの位置づけ

- ・都市計画法第18条の2に基づく計画
- ・市が目指すべき将来像を市民と一緒に考えながら、都市の将来像や整備方針を明確にし、行政と市民がこれを共有しながら実現するための計画



1. 第2次木津川市都市計画マスタープランの概要



I 計画の前提

(2) 都市計画マスタープランの役割

将来都市像の提示

本市の特性を踏まえながら、将来の目標となる具体的な都市像を示します。

個別の都市計画の指針

個別の都市計画を決定・変更する際の指針となります。

都市計画施策の提示

将来都市像を実現するための都市計画施策を示すとともに、個別の都市計画相互の調整を図ります。

協働によるまちづくりの指針

まちづくりに関わる市民と行政の適切な役割分担のもとに、市民と行政が協働で進める方向を示します。

1. 第2次木津川市都市計画マスタープランの概要



I 計画の前提

(3) 構成と目標年次、対象範囲

①構成

「全体構想」と「地域別構想」
により構成

②目標年次

令和12(2030)年度

③対象範囲

都市計画区域外も含めた
木津川市全域

第2次木津川市都市計画マスタープランの構成

I 計画の前提

1. 前提条件の整理
 - (1) 都市計画マスタープランの位置付け
 - (2) 策定の背景
 - (3) 都市計画マスタープランの役割
 - (4) 構成と目標年次、対象範囲
2. 木津川市をとりまく現状と都市計画の課題
 - (1) 社会背景
 - (2) まちの歴史と現状
 - (3) 上位・関連計画の整理
 - (4) 都市計画の現況と基本的課題

II 全体構想

1. 都市計画の目標
 - (1) まちの将来像
 - (2) 都市計画の目標
 - (3) 都市計画を進めていく上で基本的な視点
 - (4) 将来都市構造
 - (5) 人口フレーム
2. 都市計画の方針（分野別方針）
 - (1) 土地利用の方針
 - (2) 交通施設・公共交通の方針
 - (3) 都市・自然環境及び歴史的・文化的遺産の方針
 - (4) 市街地及び集落の方針
 - (5) 都市景観形成の方針
 - (6) 都市防災の方針

III 地域別構想

1. 地域区分の考え方
2. 地域別構想
 - (1) 既成市街地（木津地域）
 - (2) 木津駅東側地区及び城山台の一部
 - (3) 既成市街地（加茂地域）
 - (4) 既成市街地（山城地域）
 - (5) 関西文化学術研究都市（兜台、相楽台、木津川台）
 - (6) 関西文化学術研究都市（洲見台、梅美台、城山台）
 - (7) 関西文化学術研究都市（木津東地区）
 - (8) 関西文化学術研究都市（木津北地区）
 - (9) 農山村集落と農地、山林

IV 都市計画の推進方策

1. 住民・事業者・行政の協働によるまちづくりの推進
2. 効率的な都市計画行政の推進
3. 都市計画マスタープランの進行管理

1. 第2次木津川市都市計画マスターplanの概要



II 全体構想

(1)まちの将来像(第2次木津川市総合計画より)

まちの将来像

子どもの笑顔が未来に続く 幸せ実感都市 木津川

幸せを実感できる住みよさがある

- 住む、学ぶ、働く、遊ぶ、安心・安全の暮らしを感じられる。
- 人、組織、地域のつながりと相互扶助で地域課題の解決に取り組んでいる。

新しい価値や魅力が常に生み出されている

- 市民の感性、創造する力が育ち、活かされるチャンスがある。
- 市内外の交流・ネットワークによる地域づくりが進んでいる。
- 地域の自然・文化や立地環境、関西文化学術研究都市の研究成果などが地域個性や産業に活かされている。

人口が増加し、地域に元気がある

- 子どもが元気に産み育てられ、世代間のバランスが整っている。
- 地域ごとのコミュニティづくりが効果的・効率的におこなわれている。

(2)都市計画の目標

都市計画の目標

自然と文化を身近に 未来を拓く学研都市 木津川

1. 第2次木津川市都市計画マスターplanの概要



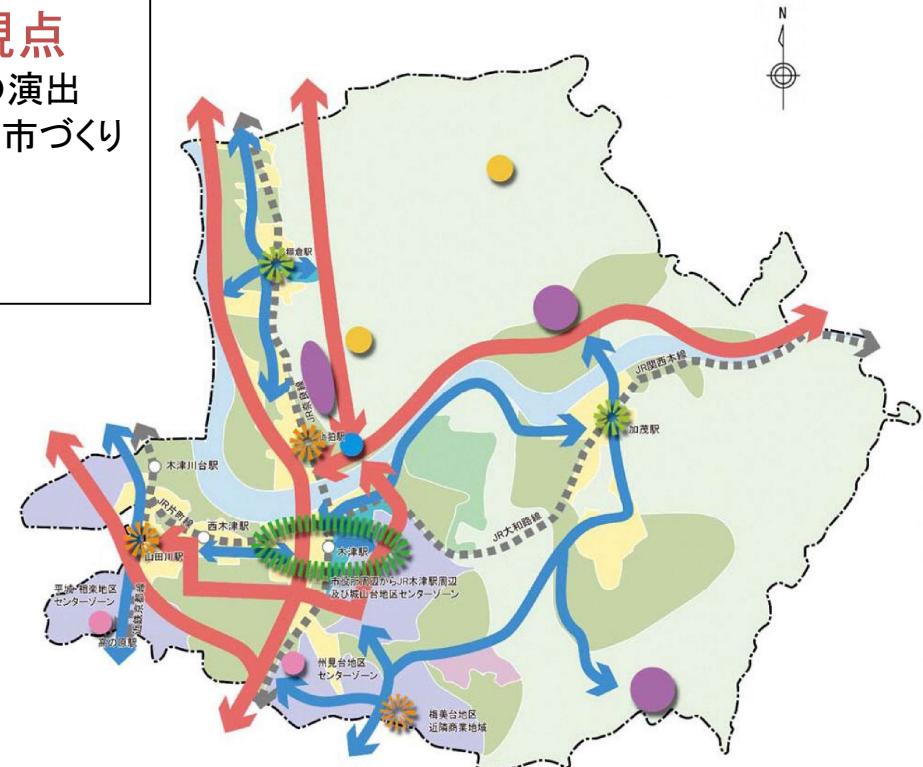
II 全体構想

(3) 将来都市構造

都市計画の目標の実現に向けた5つの視点

- ・まち全体の調和と一体感の向上による、木津川市らしさの演出
- ・地域特性に応じた拠点の適正化による、クラスター型の都市づくり
- ・安心・安全に暮らせる、災害に強い都市づくり
- ・都市と自然が調和した接続可能な都市づくり
- ・市民との協働による、木津川市の魅力の向上

凡例（将来都市構造）		
拠点	ゾーン	軸
中心都市拠点 （緑色の花形）	市街地ゾーン （黄色）	広域交流軸 （赤い線）
都市拠点 （緑色の星形）	学研市街地ゾーン （紫色）	拠点・市街地交流軸 （青い線）
地域拠点 （オレンジ色の星形）	学研市街地整備ゾーン （紫）	公共交通軸（鉄道） （点線）
商業拠点 （ピンク色の丸）	学研里地里山共生ゾーン （緑）	
観光拠点 （紫色の丸）	市街化検討ゾーン （青）	
レクリエーション拠点 （黄色の丸）	田園共生ゾーン （緑）	
にぎわい拠点 （青い丸）	森林共生ゾーン （グレー）	
	親水空間の創出 （水色）	



(4) 人口フレーム

将来目標人口

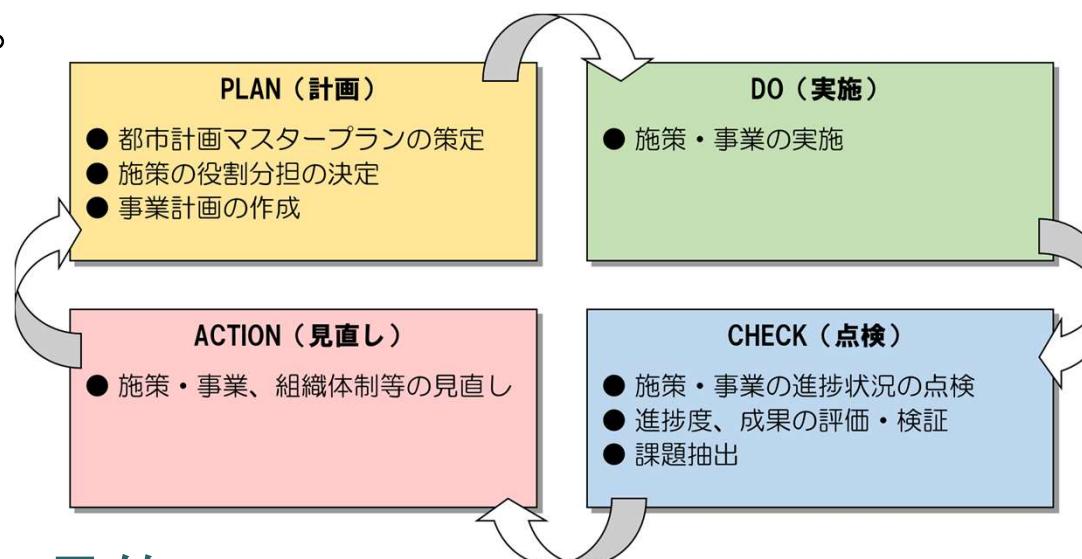
令和12(2030)年
80,000人

2. 後期計画の策定に向けて



(1) 都市計画マスタープランの見直し

令和6年3月に策定された第2次木津川市総合計画後期基本計画をはじめ、相楽都市計画区域マスタープラン、都市計画法の改正、社会経済情勢の変化による新たな課題や市民ニーズへの対応が必要となっています。このため、これら上位計画等との整合を図りつつ施策を検証し、必要に応じて計画の見直しを行います。



(2) 見直しの目的

現行計画に基づく、まちづくりを着実に継承することを基本に、環境変化に柔軟に対応するため、これまでの進捗状況を検証し、今後5年間に取り組むべき施策や実現性の高い具体的な方針を確立する

2. 後期計画の策定に向けて



(3) 計画の名称

「第2次木津川市都市計画マスタープラン後期計画」

(4) 計画期間

令和8(2026)年度から令和12(2030)年度までの5年間

(5) 都市計画の目標

自然と文化を身近に 未来を拓く学研都市 木津川 → 変更なし

(6) 施策の進捗管理

資料2「第2次木津川市都市計画マスタープランにおける進捗状況(R3～R6)報告について」にて説明

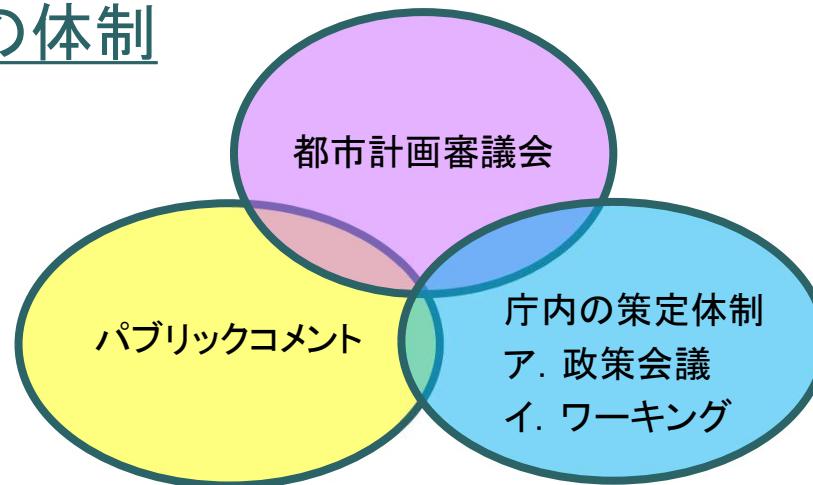
2. 後期計画の策定に向けて



(7) 主な見直しのポイント

- ①都市施設の整備状況及び土地利用状況等の変化に対応
- ②上位計画や分野別計画との整合

(8) 計画策定の体制



(9) 人口フレーム

令和7(2025)年 6月末時点人口	79,120人
令和12(2030)年 将来目標人口	80,000人

→ 変更なし

3. 今後のスケジュールについて



	2025	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026	1月	2月	3月	4月	5月
都市計画審議会へ諮詢		★											
庁内ワーキングチーム	★	★				★		★					
関係機関(府等)意見照会(約3か月)				●		→							
都市計画審議会へ(素案)報告						★							
政策会議(中間案)確認						★							
パブリックコメント(30日間)						●	→						
議会全員協議会報告							★						
都市計画審議会へ(案)報告、答申								★					
計画策定(政策会議の決定による)								★					
議会上程									★				

説明終了

ありがとうございました



木津川市マスコットキャラクター いづみ姫